

リアルグローブ、熊本県南小国町および EDAC 「ドローンを活用したまちづくりに関する協定書」に調印

当社が業務・資本提携をしている株式会社リアルグローブ(代表取締役:大畑 貴弘 以下、リアルグローブ)、熊本県阿蘇郡南小国町(町長:高橋 周二 以下、南小国町)および一般社団法人 救急医療・災害対応無人機等自動支援システム活用推進協議会(理事長:稲田 悠樹 以下、EDAC)は、このたび「ドローンを活用したまちづくりに関する協定書」に調印いたしました。

本事業は、2016 年度総務省 身近な IoT プロジェクト「救急医療・災害対応における IoT 利活用モデル」の成果の実用化事業となります。今後、リアルグローブの開発するサービス(Hec-Eye™:ヘックアイ^注)の導入を予定しております。

注:Hec-Eye™ は、ドローン映像など多様な情報を地図へ集約するものです。同サービスについて詳しく知りたい方は、Hec-Eye™ 紹介ウェブサイト(<https://hec-eye.realglobe.jp/>)をご覧ください。



写真:2017年8月22日、南小国町役場で開催した調印式の様子

■「ドローンを活用したまちづくりに関する協定書」の目的

将来を見据え、災害等の有事へのドローン活用をはじめ、日常のさまざまな産業への活用および実証実験などを行うことにより、南小国町の安心安全な暮らしを守り、便利で住みやすい町の実現へ向けて協働して取り組むことを目的としております。

■リアルグローブについて

リアルグローブは、東京大学アントレプレナープラザに入居する、先進的高度技術を保有する新進気鋭の企業であり、IoT、AI(人工知能)、ロボット等を活用したプラットフォーム、フレームワークを構築し、その技術を市場に展開することを目的としています。

主な実績として、総務省の先導的教育システム実証事業において学習・教育クラウド・プラットフォームの設計と構築を担当しています。

現在は、医療や行政の専門家を交え、ロボット(ドローン)を活用した救急救命・災害対応システム(Project Hecatoncheir)の開発を進めており、日本が世界に誇る新世代型IoTソリューションとして東京オリンピックでの配備を目指しています。

【ニュースリリースに関するお問い合わせ先】

担 当 部 署:サイバー・セキュリティ・ソリューション部
電 話 番 号:03-3262-9171
メー ル ア ド レ ス:security@idnet.co.jp